

刊夕日九十月十

常磐每日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五號十二字 第一行五元 五折 第二行四元 五折 第三行三元 五折
 日曜 祭日の翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞社



信仰と治療考

真繼雲山

金や名譽を下されと祈るのは下等の信仰といふよりは寧ろ迷信に屬すべきもので、佛様が左様なお先棒をつとめ給ふ筈はない。左れど醫者にも薬には見はなされた病人が、病氣を治して下されといふ祈願に至りては世に甚だ多い。さうした命がけの信心により果して助けてもらへるものか否かその方法は如何。

しばらく各宗に通別して稽ふるに、真言宗は祈禱宗の總本山として知られ、その加持祈禱は真言密教の獨壇場である。既に密教といふ以上、言説をはなれ、説明の限りではない。

日蓮宗も大部分の宗派は祈禱を肯定する。殊に本門佛立講の如きは『現證經力』を唯一信條としてゐる。

これに反して浄土門の諸宗は概して祈禱を言はず、新に浄土真宗にいたりては祈禱を以て異安心となし、佛名を稱ふれば敢へて品目を示して注文せよと重障おのづから滅し、必ず諸天善神の冥護ありとする。

尤も商處より見れば、天台、真言の鎮護國實といひ

真言の王法爲本といひ、日蓮宗の立正安國といふ何れも國土人民の福祉を祈るものでないものはない。たゞ一福凡愚の悲しさは國土人民のことは兎もあれ角もあれ、自身または家族が助け

て欲しいで胸一ぱいである私はそれに答へて曰ふ『守るか守らざるかは知らねども案山子は稻のためにこそすれ』であるから祈ること大いに結構である。馬鹿と無信者に附ける薬はないが迷信もやがて正信の種であるやうに、病氣を縁として神佛を信心すれば、やがて正信が得られる。正信

が得られたら必ず救はれるのである。ウソの信心といふは無いにしても、低級幼稚な信心とは、神佛といふ個体を宇宙の一角に想定して御利益を要求するもので、それは恰も糊の牡丹餅の落ち来るを待つにひとしい。地震でも揺れて来ない限り、滅多に落ちて来ることではない。正しき信心とはたとへば観音様を念ずるとして、その觀世音の妙智慧力によつ

▼アル ミニユー ム器は、ソーダで洗つてはなりません。

て、自心が清浄にされ、自分の心が觀世音の御心とひとしくなりゆくことである。位大覺に入ればそれが如來である。信心とは悩みある自分が佛力によつてその悩みを取り去つてもらひ惱みなき自分になして頂くことに外ならぬが、凡愚にはな

【朝】うづら豆、煮豆 【晝】ちくわ、里芋、こんにやく、がんとどき からし煮込 【晚】焼き肴

かゝその關門が抜け切らない。 花の咲いてゐるのは花の心のあらはれであり、病氣をしてゐるのは病める主人公の表現である。觀音様といふのは、その形を言ふのではなくして心が觀音であるのを觀音様といふのである。形が如何に立派であらうとも心が惡魔ならば、それを惡魔といふのである。形は宿世の業報によつてまゝならぬにせよ、心だけは自由である。私たちは觀音様の心にも、勢至様の心にも、成れば成り得られる筈であり、また正信の極致はその佛菩薩の境地にまで己れの心を高めてゆくことに外ならぬ、それを凡聖不二

生佛一如といふのであるが凡愚としてはなかく六つかしい。

信心の功德により、病人の心が觀音様の心に成り切つた時、又は如來の正覺にまで到達した時それは完全に救はれるのである。そのとき依然として死にとむない、命が惜しいといふのはテで信心が得られてゐない證據である。

病人の祈願とは、要するに死なぬ話になればよいのであらう。肉体はあるにせよ無いにせよ、眞實に永生と歡喜とが得られて、死なぬと同一の心もちが得られたら、それでよいのであらう。それならば、まことの信心によつて必ず永生の歡喜とが得られる。重ねて言ふが、花の咲いてゐるのは花の心のあらはれである。心が觀音様となれば形も從つて觀音様となる。心に永生と歡喜とが満ち溢れるなら肉身も亦た永生と歡喜の体となる。病むといふのはその心が病み迷つてゐるのである。

【完】

笑話

▼あなたの事です！ 妻「良人はますます具合が悪くなつて行く様で御座いますんですよ、先生、今日も傍に怪物が居るなんて言ふで御座いますよ」 醫者「細君の顔をチラと見て「何故奥様は御主人のそばにばかり居らつしやるんですか」

ツブシ・金銀 高價買入

修繕 迅速 丁寧 廉價 星野時計店 平三丁目驛前通り

秋ヲ代表

イタシマス洋食

- ライス 茶 二十五
- ステーキ 茶 二十五
- ピフメンチキ 紅
- 松茸 洋食。喫茶。宴會

電話 六六六番

近日賣出す發賣品は

満腹

一人前十五錢で満腹

せ魚漢堂

電話 六三三番

セメント 壁用材料 コールタール ペンキ塗料 板ガラス 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目「電三」

造花

靈柩自動車御用達

町川新町平 屋本橋

電話 三六一番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平町南一七〇番

目丁二町平

三井タクシ

番五八六話電

S.O.Sが者身出城石

北海道の奥地に

死線を漂ふ

唯一と頼む蕎麥は枯死し 飢ゆるも食なき此惨禍!

本社へ涙の嘆願書

凶作地北海道の惨状は言語に絶するものあり正に此の世の地獄を出現して居ると傳へられて居るが本日平地方出身同地在任者は左記書状に連署して本社に其の窮状を訴へ郡民各位の同情救援を求め来たつた

(原文の儘)時下仲秋の候 貴社益々御隆盛祝福申上げます、我々北海道奥根室に在居せる石城郡民相圖り福石根室開發同志會なるものを組織し

北土開發 の爲め日夜努力しつゝあるものであります、が如何せん入地以來恵れざる天候にて昨年は未曾有の大凶作に相會し加ふるに本年六月廿九日の晩霜にて作物全滅の悲運に遭遇

最後の望 みにもと精根絞つて被害地に蕎麥を播種致しました爲め食糧品欠亡し漸く豆粒大となりし馬鈴薯を掘り起して常食と致して居りましたが最早是れも盡きて他に食物を求むるにも

金が無く、殆んど餓死せん有様、殊に頼みに致して居りました蕎麥は雨天續きに枯死して仕舞ひました我々は已むなく飼馬の食糧品であります燕麥を以つて辛ふじて糊口を塗し救命を

御同情を 仰ぐ次第であります、何卒お力添えを伏して懇願申上げます。

北海道根室國野郡別海村 上西別五十四線八十番地

緊ぐ有様ですから働くには力なく 兒童等は 飢を訴へて 學習の氣力失せ全く死線を 彷徨する今日となりました 我々は在郷當時御紙の愛讀者でありました關係上紙面を借りて此の窮状を郷里の 皆様方に訴へ

- 猪狩 茂平
- 大原 大藏
- 阿部 福松
- 酒井 茂助
- 八卷 軍治
- 阿部 正信
- 須藤 菊治
- 佐々木 末吉
- 岩丸 正壽

木炭相場は

トシく拍子で

移出検査俄然増加

であらうと

濱三郡木炭組合の製品は最近の物價騰貴に煽られつゝ、需要期に入つた爲トシく拍子に昂騰を初め目下地元 の卸値割一俵五十五銭、 雜割が四十五銭、樺木は六十五銭の値を示し東京市場 に出では地元より二十五銭 乃至三十銭の高値を見て居る結果移出検査数は俄然増 加し九月中は十萬俵、本月 は既に六萬俵を突破して月 末迄に十五六萬俵に達する

石城馬市成績 石城 産馬組合内に於ける合戸村 字中寺、上遠野村上遠野、 同字黒田、上小川、川前村 字桶賣等の五馬糶市場で本 年九月迄に扱つた馬糶の成 績を見ると頭數八百四頭で この總價格が三萬六千三百 六圓、一頭平均取引額は三 十六圓八十六銭であるが前 年に比較すると頭數が四十

頭減し平均額は二圓安であ

成績品の準備 平第

一、第二兩小學校にては來 月下旬本縣女子師範學校に 於て開かれる縣下小學校の 成績品展覽會に應募すべく 目下各學級より二名宛を選 び圖書及び書方の課外特別 指導を行つて居るが指導者 は第一が樋口、根本、第二 が熊谷、鈴木の各訓導であ

販賣利用 總代會

石城販賣利用組合では來る 廿三日午前十時より團體事 務所樓上に於いて組合總代 會を開會し左記事項を協議 すると

- △農業倉庫の金融に關する件△農業倉庫建築費の補助申請に關する件△組合事務規定變更に關する件

養豚の損失を 野菜で食止む

勿來町農會の計劃

石城郡勿來町農會では今回 の豚コレラで養豚家達が多 大の損害を負ふたので是れ が対策として白菜其他野菜 類の栽培を大量的に行ふ計 畫を樹て準備中である

生柿出荷

廿一日協議會

石城郡農會では來る廿一日 午後一時より團體事務所樓 上に於て生柿出荷の協議會 を催すと

兩校職員野球

磐城 中學校職員對平商業學校職 員チームの野球試合は昨日 午後二時より平商グラウンド に於て行つたが十一對九の スコアにて平商職員チー ム惜敗した

正木校長講演

警城

高等女學校校長正木貞二郎氏 は本日午前九時より四倉小 學校に於て開かれた第四區 聯合女子青年團總集會に臨 席「現代女性の覺悟」と題す る講演をなした

債務調停講演

平青

年團修養部にては明日二十日

總會を開き役員の改選を行ふ

橋本校長出福

磐城 中學校校長橋本文壽氏は本日 本縣學務局教育課に於て開 かれる青年講座講師の打合 せ會に出席の爲め今朝平發 五時四十分にて出福した

平町人事

△長橋町四八 酒井榮司氏 長女良子

△胡摩澤一四 當時東京 市大森區大森三丁目一五 七五堀重次氏四男新市

△二丁目二六 當時東京市 豊島區池袋二丁目叶多榮 氏長男清一郎

△石城郡下小川村字宮田渡 邊亮信氏(三九)二丁目二 六紺野ハツ(三二)

△新川町二三 渡邊榮吉氏 (二七)茨城縣多賀郡關本 上一三七四木田せつ(二 二)

△大館一二 當時石城郡草 野村字前原佐藤スエ(二 三)

△二丁目五一 小松崎ヲカ (五七)

△北目町九 當時東京市板 橋區板橋町五丁目九一七 渡邊ウラ(七二)

△長橋町三〇 中辻ハツエ (二九)

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

門專科外花 院醫科外村木

際橋目丁五町平 番九〇三話電

りあ便の炊自院入

看護婦急派 の求めに應 じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

古河男爵の一行 來郡事業を視察

石城郡好問
村古河炭礦
會社々長吉
村萬次郎氏
並に同社取締役頭取男爵古河虎之助氏等一行十餘名は
來る二十二日夜平騾着一泊の上翌廿三日古河炭礦の
事業視察を行ふ豫定である

誇大な廣告で 人々の膏血を絞る

全國を相手の詐欺漢
昨日刑務所に收監

石城郡大浦村大字上仁井田
字夕圓百四十九番地無職高
木淳(三)は本日午前九時
一件書類と共に檢事
局に押送され市川檢事取調
への上詐欺罪として直ちに
拘留來る二十五日午前九時
より平區裁判所に於て關口
判事係り公判開廷の筈であ
るが事件の内容は昭和五年
三月より同六年

十月迄の 間何んの準
備もなくアングロ兎飼育法
及び醬油製造法等の書類を
通信販賣すると雑誌「尊農」
等に誇大の廣告をなし熊本
縣玉名郡木幸村東寅喜外百
八十名より合計九十五圓を
送金せしめ之を

騙取した 外、本年三
月中商農協會と稱し相當收
益ある自宅筆生又は支局長
を募集するもの、如く雑誌
「農村の日本」に嘘萬八の廣
告をなし滋賀縣坂田郡醒竹
局内武藤道雄外約三百名よ

(五)の詐欺 遂事件は去る
十五日平支部に於て中島裁
判長より懲役一年を言渡さ
れたが本日不服として控訴
を申立た

平町の 虎眼

検診日割

平町では本年度トラホーム
檢診を來る廿四日より來月
七日迄の豫定で行ふことに
なつたが各町内日割及受持
醫師は左の如くである
(廿四日)久保町(廿六日)
材木町(廿八日)長橋町
(廿九日)研古(卅一日)八
幡小路(十一月二日)五丁
目(以上擔當醫師鈴木亮
氏)(廿四日)仲間町(廿
五日)北白銀(廿七日)才
樋小路(廿八日)南白銀
(廿九日)田町(卅一日)大
工町鐵道官舎(以上擔當

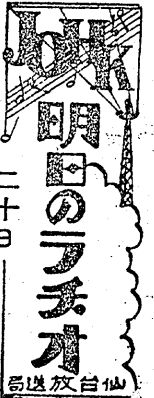
町議有志 同情寄附

四家訓導へ

平町會議員左記有志は悲運
の元第二小學校訓導四家安
男氏に對し本日金十四圓の
寄附をなしたが氏名は左の
如くである
井上茂作、萩原義雄、關
内正一、野崎滿藏、根本
品藏、馬目武之助、鈴木
光吉、青沼鋒太郎、大森
勇、馬目雅治、荒川淺次
郎、荒川恒次郎、佐藤岩
次郎、花澤五五、綠川
喜三郎、坂本隆藏

懲役言渡 不服申立

既報石城郡上遠野村大字上
遠野自動車營業鈴木子之吉



今晩は北西の風
曇り勝ち明日は
南西の風曇り

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話し「紙」深田繁美
後七、三〇 講演「建築と
照明」工學博士武田五一
後八、〇〇 浪花節 敷島
大藏
後八、三〇 映畫物語「薩
摩飛脚」(東海篇)伍東宏

明日の部

前六、三〇 秋季國文學講
義師新妻幸之助氏(廿
七日)鍛冶町(廿八日)紺
屋町(卅一日)舊城跡(十
一月二日)一丁目(四日)
二丁目(七日)北目 胡摩
澤(以上擔當醫師吉田安
雄氏)(廿五日)鎌田(廿
七日)立町(廿八日)堤ノ
内 月見町(卅日)南町
(十一月三日)新川町(四
日)三丁目 四丁目(以上
擔當醫師星恒司氏)

給料不渡で 人夫等哀願 生活に窮む

石城郡内郷村大字宮字平太
郎居住土木請負業坂本秋義
は小名濱築港用石材の採取
人として雇つた南會津郡二
河村字白岩生れ玉川榮(三)
及び安達郡小濱町字上尾町
生れ渡邊松治(九)外一名の
者に對し日給を支拂はず前
記三名は全く生活に窮し本

日本署に給料支拂の説諭方
を願出た
子守娘が
行衛不明
石城郡飯野村字南白土高橋
豊吉方子守相馬郡石神村生
れ吉村トキ(二)は去る十七

遊興を拒絶され 嫌がらせの悪戯

日夜九時頃生地の父母戀し
さに無断家出をなし行衛を
晦したので雇主より日本平
署に捜査方を願ひ出た
白張の提灯をブラリ

石城郡内郷村大字宮字町田
二〇八居住抗夫秋田縣南秋
田郡元山田村字柳田生れ鎌
田武雄(三)は去る十六日午
後十二時頃同僚たる清橋新
一(三)折笠西松(三)の兩名
を誘ひ同村字町ノ内カフエ
一ひふみ事鈴木フミ方に一
ツ杯飲みに出掛たがカフエ
一方では鎌田が常に支拂ひ
の悪るい處から店を閉ぢる
からと稱して飲酒を断つた
ので憤慨し午前一時頃武田
は附近墓地より塔婆二枚、
提灯一個、白木の御膳二組
を持出して前記カフエの
入口に有つた植木鉢に備付
け營業を妨害した事發覺し
目下平署で嚴重取調中であ
る

磬女生徒が 磬城高
川前紅葉狩 等女學
校にては來る二十九日各教
諭指導の下に川前に紅葉狩
を行ふと
磬中野外演習 磬城
中學校二年生二百四十八名
は來る二十四日好問村上野
原附近に於て八谷、國分、
小松、庄司各係官指導の下
に野外演習を行ふと

平裁判たより
石城郡勿來町大字窪田字
町通二十五番地自動車運轉
助手酒井登(三)は無免許に
て本年八月二十六日午後十
時頃久瀧郡坂本村國道に貨
物自動車運轉し自動車取
締令違反として罰金二十圓
に本日平區裁判所に於て略
式命令を以て處分された
平職業紹介所報告
回人を求める方
△大工徒弟 十八才 尋卒
仕着小遣(神谷村某)
△外交員 四十才 高卒
月十五圓外歩合(平町某)
△農夫 三十才 尋卒 給
料面談(江名町某)
△雜夫 三十才 尋卒 給
料面談(小名濱町某)
回職を求める方
△行商 二十六才 高卒
給料面談(平町某)
△活版工 二十三才 商業
半退 給料面談(平町某)
△事務員 二十二才 高卒
給料面談(相馬郡某)
△雜夫 二十九才 尋卒
給料面談(平町某)

座「奥の細道」(抜抄)三萩
原井泉水
前九、一〇 料理献立
「煎り松茸、梨、人参の三
杯」酢外佐藤つぎ
前一〇、三〇 家庭講座
「家庭に於ける工業常識」
東京府立實科工業學校最
津田信良
後〇、〇五 俚語「松坂」新
潟縣柏崎町伊平たけ
後〇、二五 俚語と小唄
綾香小夜子外
後一、五〇 運動競技
「六大學野球リーグ戰試
合狀況」(豫備日)明治神
宮外苑球場より中繼

後二、〇〇 家庭大學講座
「倫理學(五)良心」東京帝
大講師大島正徳
後六、〇〇 子供の時間
獨唱仙臺市内小學校兒童
後七、三〇 講演「續日本
はどうなる」岩學博士下
村宏
後八、〇〇 長唄(大阪中
央電氣俱樂部より中繼)
網館吉住小三郎其他
後八、三〇 小唄岩井ふみ
外
後八、四五 浪花節「天草
四郎と油井正雪」蛟龍齋
青雲
後九、三一 滿洲より

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第七十八席 平手

見事な腕のさえ

平手は證書の雛形を書いて三人の武家の前に出すと高島郷太夫が「高ウーム、よし、それで書いて遣はす」

前に認めた如く書き判をいたした、造酒はそれを受け取り駿河屋の主人に預け「造酒はこれ出かけやうから」郷「参れッ」

と云ひ捨て郷太夫が先に立ち三人は駿河屋の店を出る、造酒は残つてゐた酒をグイと飲み干す三人の跡を尾いて来た、さアこの事を聞き付けた参詣の人々はそれ決闘だ、お武士の喧嘩と云ひながらゾロ／＼後から尾いて来る、平手は町外れまで来ると

造「此處が宜しからう、廣々として死に心がいゝ、サア参れ……」

造酒は亂れる足許を漸く踏止め

造「何を致し居る、早く斬つて参れ、但しはおれに恐れなかな」



俺などは腹に支度が出来てゐる、イザ切つて参れ」郷「何をこの無禮者め……」と三人はフラーリ引抜いたが造酒は柄には手もかけず三人の容子を見てゐたが

造「未熟な奴だな、そんな事では人は斬れぬぞ、サア避け」

と云つたが一角は左の耳が落ちると思つたからこれへ氣を付けてゐるとバラリ右の耳が落ちた、技が違ふと恐ろしいもの、一角はアツと驚くとそこをバタ／＼と逃げ行かうとする、その襟元をグツと掴んだ造酒

造「卑怯な奴だな、何故逃げる、朋友を残して参つては宜しくないぞ、逃げるならこの二人を連れて逃げるさア……大事な身體を粗末にする奴だ……」

と云つたが、何も粗末にする譯ではない、造酒の爲に粗末にされたのだ、見物は喧嘩だッ……とイヤ大騒ぎ、之を飯岡の者が聞いて置いては賭場防ぎの三人は斬殺されるであらう、それ

駈付けろと二十人餘りこれへ参りましたが、こんな事があらうとは夢にも知らぬ勢力富五郎、賭場を見張つてゐると喧嘩ダァー喧嘩ダァーと云ひながら表を駈けて行く

参れ」スーッと突立ちニヤ笑つて居る、この傲慢なる態度に三人はます／＼怒つた、中にも高島郷太夫は造酒を望んで正面からサツと斬り込んだ、この時平手は柄に手をかけたが、バチ／＼と

日頃から武藝の自慢をいたし居るであらう、依つてその隆い鼻を剃いでやる、参るぞ……」

踏み込んだがピカリと光ると運平の鼻が無くなつた、と尋ねた時にこの賭場へ菓子を買りに来てゐた商人

富「間違ひが出来たか、相手は何者だ」

と尋ねた時にこの賭場へ菓子を買りに来てゐた商人

富「間違ひが出来たか、相手は何者だ」

見てゐた見物人はウハツと聲を揚げる、造酒は志摩一角を見て

造「今度は貴様の番か、朋友二人が負傷をいたした故貴様一人満足に置くは朋友の誼みに缺けた事だ、依つて斬つてくれるが、いゝかな、ソレ耳がなくなるぞ、左の耳だ」

と云つたが一角は左の耳が落ちると思つたからこれへ氣を付けてゐるとバラリ右の耳が落ちた、技が違ふと恐ろしいもの、一角はアツと驚くとそこをバタ／＼と逃げ行かうとする、その襟元をグツと掴んだ造酒

造「卑怯な奴だな、何故逃げる、朋友を残して参つては宜しくないぞ、逃げるならこの二人を連れて逃げるさア……大事な身體を粗末にする奴だ……」

と云つたが、何も粗末にする譯ではない、造酒の爲に粗末にされたのだ、見物は喧嘩だッ……とイヤ大騒ぎ、之を飯岡の者が聞いて置いては賭場防ぎの三人は斬殺されるであらう、それ

駈付けろと二十人餘りこれへ参りましたが、こんな事があらうとは夢にも知らぬ勢力富五郎、賭場を見張つてゐると喧嘩ダァー喧嘩ダァーと云ひながら表を駈けて行く

商「此方の先生と飯岡の若い者と喧嘩をしてゐると聞きました」

富「なに平手先生と……ウームそいつは困つたな、又何時もの酒で失策つたか」

と若い者を五六人伴れて駈けると、今度鹿島の祭禮に就てこれへ出張してゐた港の市兵衛、東金の仁兵衛といふ俠客が来て平手と飯岡の身内を引分けてゐる所

でした勢力は二人に禮を述べ兎も角先生お旅宿込お出なさいと平手を加納屋と云ふ旅宿に連れて来た。

新築落成式開業御披露

秋冷の候皆々様には彌々御清祥に涉らせられ慶賀の至りに存じます。諸て過般弊店の類焼に際しては何彼と御高配を賜はりました誠に有り難く感謝に堪へません、爾來鋭意新築工事中の處此程愈々完成し茲に更生の陣容を整へて再びお華客皆々様をお迎へし最善の奉仕が出来たる事になりましたので去る十七日より營業を開始いたしましたから何卒倍舊の御愛顧を垂れさせられ度新築落成御披露旁々茲に謹んで懇願申し上げます

尚ほ三階大廣間の宴會席御利用に就ては格安の御相談に應ずる外新設食堂部では
牛鍋御飯付 三十五錢 お酒一本 三十錢
で大々的の勉強を致します。

昭和七年十月

平町田町
石川亭

電話四三番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス

製 菓 子 壘
硝子 食器
其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番